

<芦北町・津奈木町／各団体>

日 時：令和2年10月16日（金）13時30分～15時00分

会 場：芦北町民総合センター

参加者：14名

【発言者①（あしきた農業協同組合）】

はい。JA芦北の〇〇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

3分から4分ということで制約がありますがけれども、精一杯お話しして参りたいと思います。

7月の4日未明の豪雨によりまして、確か629ミリくらい、24時間あたり降っていますが、これが佐敷川を経て氾濫をしてきてその洪水により、芦北町は一変したと思っております。

それは球磨川を芦北町は約15キロほど接しておりますが、球磨川については、今ありましたように私の個人としては、必ず絶対ダムを作って、それも防災の一つの材料として、真剣にやって考えていただくことをお願いしておきます。

私達は芦北町のことについて、今日はお願いたしますが、佐敷川の氾濫で起きたんですから、佐敷川の改修をと思っておりましたけれども、前の〇〇組合長から引き続いて、私どもに言われたのは、昔は川で泳ぎよったんだと。魚もいっぱいおって、しかしながらそれが何十年か経過した今、土砂が溜まって浅くなってるんです。一旦降った大雨が上流から海までにスムーズに流れていく構造になってないんじゃないかと。

ですから当然、流れるようにするには、やはり川の底を掘って、そして深くして流れるように対策をできないか。もちろんこの前の一般質問も傍聴させていただきましたが、県のほうでは早速取り掛かってもらうような反応がありましたけれども、期待を致しておりますが、とにかく、佐敷川に流れ込む支流のほうも、川の底を浚えといいますか、土砂を取っていただきたいとこのように思っております。

それからただ土砂だけではなくて、流木がかなりの量で入ってきました。ただでさえ高齢化した農業者はもう農業はできんばいと、あのデコポン農家のハウスを視察したときに、その方が言われました。もう俺はデコポン作りは止める。本当に心が折れたというか、そういった被害状況であります。ですからこういった流木の、あるいは土砂の早期撤去を考えていただければというふうに思っております。

それからこの災害をきっかけに、被災した地域の用地等の区画整理をやっていただけないかというお願いでございます。

4年前の熊本地震を思い出しますと、市街地等の区画整理があったようでございますが、やはり地震によってピンチになったのをチャンスに変える、災害をいい方向に変えるというチャンスではないかというふうに思っております。

ですからこの地域の農用地の区画整理というのを考えてほしいと思います。

4つ目には、やはり農地の換地化。ご存知のように芦北地域は前は海、後ろは山岳が迫って、その傾斜を利用した柑橘栽培が盛んなところで、ところが今回も見ていただければわかりますように急斜面が崩れて、ミカン山をつぶす、それによって亡くなった方もおられますけれども、その下にあるデコポンのハウスの方にも土砂が入り込んできました。若い農業者と話しますと、もう急傾斜では仕事はしたくないと。やはりどうしてもこの際、先を見れば平地、あるいは谷を埋めてでも平地を作っていただいて、そしてそこにデコポンハウスなりの集団団地を、JAも考えておりますし、芦北町の方でも取り組んでいただいております。これに対して県の方でも後方支援を強力にお願いをしたいというふうに思います。

それから、5番目ですが、隣に森林組合の〇〇がおられますけれども、今回の災害のなかでやはり目についたのが、大きくなった大木、杉の木あたりがほとんど土砂に押しつぶされて、それが田畑に入ってきている。

いわゆる太くなって、それだけの重量に耐えられなかったのかなと、これは伐採適期、あるいは山の管理が影響してくる話でありまして、もちろん地主さんの意向もありますけれども、そういった適期に管理をすればある程度は防げるんじゃないかと。またそうして、流れ出た木が海のほうに行きます。海底に沈んで、魚を取る漁師さんの網まで絡みついて、漁業まで被害を被る実態がありました。

こういったことをやはり林業の適期の伐採、あるいは山林管理で豪雨災害の抑止になるというふうに思います。

またそれも併せて、山をきれいにすることによって、鳥獣害への被害の対策にもつながっていきはしないかというふうに思いますので、そこら辺の対策、対応を考えていただきたいと思っております。

それと最後になりますが、ある集落では裏山のなかに3か所の亀裂が入っているということで、今、今度建てました住宅のほうに避難を余儀なくされております。

これは放っておきますと、今後の大雨等々によって、それが沁み込む。そして裏山が崩れて土砂災害が起こる。要するに二次災害の可能性が非常に大きいものがあります。ですからここら辺はどういった亀裂の大きさなのか、深さなのか、土質はどうかという調査を早目にしてもらって、対策をしていただければというふうに思います。

3分以内ということだったので、まとめてきましたけれども、以上で

私の発言を終わります。

【発言者②（水俣芦北森林組合）】

はい。本日はこのような時間を設けていただき、ありがとうございます。

先の集中豪雨によりまして森林においても林道の崩壊や山林崩壊という多大な被害を被りました。

現在も、広域の基幹林道をはじめ、一般の林道・作業道等を今、調査測量の段階もごさいますし、それから手つかずのところもあるということでございまして、林業の場合は、そういう基幹林道とかそういう作業道路も、それだけでいいんじゃないくて、それが市町村道の、市町村というか、それから県道、それを使って、例えば合板のほうに出したり、輸出材にしたり、それからバイオマスに出したり、そういう形でありますから、やはり道路はネットワークが完結していないとなかなか厳しいと。今の現状としましては、やはり市町村とか、材を積んで運び出します。

それから林業機械を現場へ搬出入ということで、非常にやはり重量になるわけです。

私は実は昨日、一昨日、うちの担当と実は現場をまた、もう一回見せてくれということで回りましたけれども、やはり表面はいいんだけど、下の大木とか土砂が撤去されて、中が空っぽになっていると。

こういうのがわかりにくいですよということで、まずは事故がないように念には念を入れてということ強く申し上げております。

それと森はやはり緑のダムといわれていますけれども、森はやはり適切に、適正に管理をしております。

非常に保水力もありますし、それから治水向上の機能も効いている、ということも言われております。

もちろん、個人的にはダムとかそういう遊水地とかいろいろございましょうけれども、やはり森が本来もっておる治水の効用というのも、これは全て出していくのがいいんじゃないかなというふうに思っております。

それと最近、先ほど言われておりますけれども、非常にやはり自然災害が多い、大きくなってきているということでございましてけれども、これはやはりどうしてもいろいろと地球温暖化の一環であるということでございまして。

これは森林が、温室効果ガスの吸収面としての機能を十分果たせるように、機能をやはり揃えていかなきゃいけない。

植えたら育てる、育てたらそれを活用すると、この循環をどうすればそれが途中で切れちゃうかということもございまして、そういうものについても、私たち林業者がやはり事業継続で、またはお手伝いいただける分については国・県の力をお借りしながらしていかなきゃいかんと思っておりますのでござ

います。

先ほどと被りますけれども、森作りをおこなうことで、公益的機能を発揮させていきたい。

今後、林業を行うなかで、道路の計画が基本でございます。

で、今一生懸命取り組んでもらっておりますけれども、やはりどうしても林道とか作業道になってきますので、やはり街中の道路と比べるとやはり優先度がとても低くなってきます。

ただ、そういうなかにもありまして、国の予算の優先配分を図っていただきながら、全体としてのネットワークが完結するように取り組んでいただくと非常にありがたいと思います。

以上でございます。

### 【発言者③（芦北町商工会）】

はい。芦北町の〇〇でございます。

商工業を代表いたしまして、報告並びに要望を申し上げます。

昨日、県庁のほうで蒲島知事に商工会連合会の役員として御要望をいたしておりますので、内容が若干被ると思いますが、御了承いただきたいと思っております。

災害発生直後から県内の商工会青年部は重機やトラックで駆け付け、商工会だけじゃなく、一般人まで泥出しや片付け、そして廃棄物もボランティア活動に頑張っていただきました。

住民、大変ありがたく感謝いたしております。

女性部も青年部への炊き出しに出て来ていただいて、商工会の絆を再確認したところでございます。

芦北町は佐敷商店街等の被災事業者がもっとも多いため、商工会 2 階に相談スペースを設けて、大変お世話になりますが、県職員の方にも常駐していただき、特任経営指導員、県連の指導員、県内各地の商工会から応援指導員、さらには専門家派遣の中小企業診断士、社会保険労務士、地元の商工会指導員 3 名が協力して相談体制を取っているというところでございます。

不明な点がありますと、その場で県職員にお尋ねすることができますので、大変ありがたく思っているところでございます。

特に県にお礼を申し上げたいと思っておりますのが、特任指導員、この 11 名を配置していただいた、これに対しては極めて感謝する次第でございます。

なりわい再建補助金、持続化補助金、令和 2 年 7 月豪雨等においても、一刻も早い事業再開に対して、遡及して助成されるのは今回の豪雨災害においては被害額が広範囲に及んでおりますので、被災件数が会員 359 社、その内 257 社は被災している状況であります。

地元業者が被災に遭っているため、業者も順番待ちが多く発生しているとい

うことで、またそれに加えて町外からも相談があつておりますので、多くの方々がブースが満杯というような日もたくさんあります。

商店街等につきましては、現在工事中でございまして、これはかなり時間がかかるというふうに思っております。

今回の豪雨被害は満潮時期において未曾有の大雨により、佐敷川、湯浦川の流域で発生しているため、堤防、護岸、嵩上げ、砂防ダム建設が難しいのであれば、遊水地の整備等を行っていただきたいと思っております。

また今回、流失した、先ほどのお話にもありましたように、土砂、川底へ堆積しておりますので、これを取り除くことが川の許容量を増やすことになると思っております。

被害をいくらかでも抑えることができればありがたいなと思っております。

今後の店舗等のあり方については、駅前の商店街を1階は駐車場、2階を商店、民家がございませぬので。商店主が意見が一致するとこれは早くできるのではないかと。

特に、そのスーパーマーケットを経営しておられる経営者の方が強く望んでおられますので、商工会としましても、これに精一杯お手伝いをしていきたいというふうに思っております。

今いろいろ話題になっております、球磨川流域の川辺川ダム建設。これは水位が下がるというデータが出て来ておりますので、建設によってですね、であるなら、私どもは建設に大賛成でございます。

それから地域の中心部が流出した球磨村、八代地区、それから芦北の復興は、早くできましたので、その分相談が相次ぐと思われまますので、今後、今の現在の支援態勢を当面は継続していただきたいというふうに要望をいたします。

形式的にはここにありますが、時間が長くなりましたので、割愛させていただきます。以上で、報告と要望といたします。

よろしく申し上げます。

#### 【発言者④（津奈木町商工会）】

はい、津奈木町商工会です。

今回、球磨川流域を中心とした意見交換会ということで、津奈木町は流域から直接被害を受けることはございませぬでしたけれども、津奈木町の一応福浜地区、まさに私の住んでいるところなんですけれども、朝6時ぐらいに外に出まして、非常に命の危機といいますか、そういう危機感を初めて味わった気象の様子でございました。

河川での災害というものの、農地等が相当津奈木町も被害に遭っておりますけれども、土砂災害で亡くなられた方もいらっしゃいます。

商工業者においては水害で機械であったり設備機器であったり、といった被

害も相当に出しております。

コロナウイルスでいろんな企業すべて疲弊いたしまして、この災害でとどめを刺されたと感じておられた方も非常に多かったんじゃないかなというふうに思います。

先ほど芦北の商工会からありましたとおり、いろんな施策等でお世話になっていること本当にこの場を借りて感謝したいというふうに思いますが、期限付きでやられている助成等もあるかと思しますので、引き続きこのコロナウイルスも収まりがつきそうにありませんので、よろしく願いしたいなというふうに思います。

ちょっと脱線いたしましたけれども、土砂災害でやられた地域が非常に多ございます。

この土砂災害、今回の場合は、全く予測ができないところから災害が出て、人命も失われたということで、今回先ほどのデータをいろいろ見させていただきましたけれども、球磨川に関しては完璧ではないにしても、それだけの数字が安全性といいますか、水位に関しましても、出ているというようなことありますので、いろんな問題があろうかと思いますが、早急にその対策をして、特に人吉、それから球磨、坂本あたりは、町そのものが崩壊寸前になられておられます。

商工業に関しては、その町を復興する一番の機動力の基盤であるというふうに思っておりますし、そのものを復旧するには非常に時間もお金もかかりますし、予測できる数字があるのであれば、早急にそれに取り掛かっていただいて、防災に対する安全性を高めていただきたいというふうに思っております。

単純なお話ですけれども、意見に変えさせていただきたいと思えます。

以上です。

#### 【発言者⑤（東海カーボン株式会社）】

東海カーボンの〇〇と申します。

今日は2人で4分ということですので、私のほうから手短にお話させていただきます。

まず本日は、このような大変貴重な機会にお声をかけていただき、深く感謝申し上げます。

また、このたびの豪雨災害により亡くなった方、被災された方に心からお悔やみとお見舞いを申し上げます。

私ども、田ノ浦工場は、昭和10年から85年間、地域の皆様とともにこの芦北町において、カーボンの生産活動を続けてまいりました。

前回、昭和57年にも集中豪雨により工場が被災しましたが、その後、各種対策実施にもかかわらず、今回再び工場は冠水し、火災が生じることとなりま

した。

そのような状況において、蒲島知事からは復興に向けて全力で支援すると温かい親書をいただき、田ノ浦工場はじめ会社従業員一同大変勇気づけられています。

蒲島知事には心から感謝を申し上げます。

この熊本県は、熊本地震という未曾有の自然災害を受けましたが、創造的復興を旗印とした蒲島知事の素晴らしいリーダーシップと、それから強力な推進力でこれまでも更によくなった熊本県に生まれ変わってきていると感じております。

年々厳しさを増す大自然に対し、我々企業の方では限界がございます。

私どものお客様、また株主様からも、事業継続を不安視する声も届いてきております。

私どもは、熊本県からのスピードをもった強力な御支援をいただいたうえで、お客様、株主様の不安を払拭し、この芦北町で安定した事業活動を継続してまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

では、7月4日の水害対応その後の復旧の陣頭指揮をとった、〇〇から、田ノ浦工場の状況について説明を申し上げます。

#### 【発言者⑥（東海カーボン株式会社）】

東海カーボン、田ノ浦工場の〇〇でございます。

7月4日の集中豪雨の際には、現地で指揮をとっておりましたが、これまでにない豪雨によりまして、私どもの工場も甚大な被害を受けました。

本日は、私ども田ノ浦工場の状況と今後、事業継続していくうえでの熊本県へのお願いを申し上げます。

東海カーボン田ノ浦工場は、肥薩おれんじ鉄道の肥後田浦駅の西に工場が立地しておりますが、八代海に面しております。

工場内には、近隣の小田浦地区から流れる町の水路が3本場内を流れて、工場内の遊水地に近隣地域の排水が流れ込むという特殊な立地条件がございます。

工場は満潮時には海水により低くなりますので、遊水地には熊本県の排水ポンプが3基、あと芦北町の設置した排水ポンプが2基、合計5基のポンプがございます。

潮位が上がったときは、この排水ポンプによって、遊水地の排水を行っております。

今回の7月4日の集中豪雨の際、これは満潮に重なっておりまして、排水ポンプ5基全てを稼働しておりましたが、それも短時間の間にどんどんと水嵩が増して、水は遊水地から溢れて、工場は冠水しました。

最終的には、すべての排水ポンプが停止しました。

工場の生産設備は、水に浸かり、また黒鉛化工場にも浸水した結果、水蒸気爆発による火災が発生し、この黒鉛化工場は全焼してしまいました。

幸い、人的被害はございませんでしたが、地域の皆様にも多大なる御心配をおかけしたと恐縮しております。

当時の雨量と実際の遊水地の水位上昇などを調査しましたが、かなりの排水能力が不足していたと考えられます。

この地での事業継続のためには二度と浸水被害が起きないということが必要でありまして、ぜひとも排水ポンプの増設による、排水能力の強化を早急をお願い申し上げます。

また、町の水路から、遊水地に土砂も大量に流れ込んでおります。

土砂の浚渫など遊水地の管理は現在、弊社が行っており、相当な費用も負担しております。

費用の補助など、公的支援とともに今後の管理体制についても、御相談させていただきたくお願い申し上げます。

私ども、東海カーボン、田ノ浦工場は昭和10年に設立以来、85年の長きにわたり、芦北地域のこの地で事業を継続してまいりました。現在では、世界中に製品を届けております。

今回の被害は、昭和57年以来の2度目でありまして、会社としては工場の復興、生産継続にあたりましては、株主やお客様へしっかりと説明していかなくてはなりません。

これから先も、この芦北の地で末永く安心して事業を継続していけるように、ご支援ほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

以上で、私どもの発表を終わらせていただきます。

#### 【発言者⑦（芦北町観光協会）】

〇〇です、どうぞよろしくお願いいたします。

まずは、今回の流木によって、鶴木山の海浜公園は今年は海開きができず、御立岬の方はできたんですけども、鶴木山の方の海水浴場は使えませんでした。

それと別に、佐敷のこの町並みというのはそれこそ、今の町並みは安土桃山時代に加藤清正がここに建てたお城の城下町として出来た町並みでして、そのほとんどが水害に遭って、浸水をしました。

ただでさえ、だんだん開いているお店が減ってきたなかで、歴史ある建物が、なかには明治時代、大正時代、昭和、平成と、四世代並んでいる地区、建物もあったんですが、聞くとところによると、公費解体の方になるようなかたちで。ずっと歴史を町案内とかしていましたが、本当にだんだんそういう説明する場所がなくなってしまう。

それにあたっては、できましたらこれは町に対してもなんですけれども、町と県と合わせまして、空き地の有効活用といたしますか、新しい若い職人さんとか、いろんなお店を誘致するのに優遇措置をしていただいて、歯抜け状態になるだけ少しでも埋まるように、いろんなかたちで、この被災した佐敷の町が復興できるように。また、私の考えとしては、佐敷川の増水対策としては、ただ単にコンクリートの堤防を高くするとかではなくて、アクリル板とかを使って、平常時は風が通るようなかたちで、大雨のときは前もってずらすとせき止められるようなかたちで、川の景観をなるべく残してもらいたいと。

安心、安全で、通学路のほうは何分、中学校の通学路にもなっているんですが、そちらのほうで街灯が少なくなっていたりするものですから、そういうところも子どもたちも安心して通学できるようにとか、特に下校の時間が冬になると暗くなります。

そういうのも合わせて、ご配慮いただいて。同じく湯浦川もそうなんですけれども、湯浦川も割と堤防が低くて、石垣は高いんですが、堤防自体が低いので、ただ単に、コンクリートで造りあげるのではなくて、そこら辺の景観も踏まえて。昔は佐敷の町は小京都と言われるような町並みだったんです。

それからだんだんだんだん、建物も減ってもきましたし、河川工事とかで、もう完全に石垣に堤防の景色になってしまいましたが、これ以上、景観としてももっともって考えて、ただ単にコンクリートで造るのではない工法を考慮していただきたいというふうに思います。

これから先、いろいろ町としても、観光のためにいろんなことを考えていきたいと思っておりますので、県のほうもどうぞ、お力添えをどうぞよろしくお願いいたします。以上です。

どうもありがとうございました。

**【発言者⑧（熊本県建設業協会芦北支部）】**

熊本県建設業協会の芦北支部、〇〇でございます。

早いもので、7月豪雨から3か月が経ちました。

このスカイドーム周辺をはじめ、芦北町の中心部が佐敷川の氾濫により、浸水いたしました。元の姿に戻すために、竹崎町長を先頭に、みんな一丸となって頑張っているところでございます。

我々、建設業協会芦北支部は、豪雨により被災した会員もいましたけれども、県と大規模災害支援協定を締結しておりますので、豪雨直後からの道路の確保、孤立集落の解消、被害拡大の防止を目的に、道路啓開作業や河川の応急工事を進めたところでございます。

また、県から御支援をいただいております芦北町内の宅地内堆積土砂撤去についても、我々が協力させていただいておりますが、被災された多くの皆様か

ら感謝の言葉をいただいております。

一つ、御紹介をさせていただきます。被災された方の子どもさんからのメールなんですけれども。

「先日は御尽力いただき、ありがとうございました。オンボロの家ではありませんが、入院しております父と母の思い出の場所であり、せめて元の場所に戻してやるべく、自力で復旧作業しておりましたが、なかなか先が見通せず、母と2人で途方に暮れておりました。本日現地確認いたしました。ここまでやっていただき、ただただ感謝しかございません。ありがとうございました。」

このような言葉をいただきまして、なかなかスポットが当たらない私達の仕事に対して、改めて誇りを感じたところでございます。

これからも地域の安全と安心の確保に精一杯、力を注いでまいります。

球磨川につきまして、今回の氾濫では、これまでの経験を遥かに超える異常な洪水により、集落と集落をつなぐ沿岸の道路や橋が被災して通れなくなりました。

道路啓開作業を私達は進んでいくなかで、川沿いにお住まいの方々から、「これまでの洪水とは景色が違った。」「呆然となった。どうしようもなかった。」「逃げるのが精一杯だった。」「今後のことは決めていない。」などというお声を聞きました。

一方、「床上浸水したものの宅地嵩上げをしていたので、被害が軽減できたと思う。」という声もお聞きしました。

球磨川の治水につきましては、国や県、先生方が科学的な検討を加えられ、計画を策定されると思っておりますが、被災した球磨川沿いを見ますと、一日も早く対策の計画を示していただきたいと切に思っております。

我々はその計画について、力を結集して、形にしていく覚悟でございます。

球磨川の治水対策ももちろん大事ですが、冒頭で述べましたように、ここ芦北町の中心部は、佐敷川の氾濫により約300ヘクタール、1,000戸を超える浸水被害がございました。

また、土砂崩れも多数発生しております。

どうぞ、再度、災害防止の対策を速やかに進めていただきたいと思います。

最後に、道路河川、農地、治山施設、土砂崩壊など、災害件数は県・市、町合わせて2,000件を超えるとお聞きしております。

これからの復旧工事を円滑に進めていくためには、熊本地震の経験をもとに、受発注所管の情報交換や協議、また入札契約制度の取り扱いにつきまして、早め早めの運用を行っていただきますよう、よろしくお願ひしたいと思います。

以上、意見とさせていただきます。

【発言者⑨（芦北町社会福祉協議会）】

はい。芦北町社会福祉協議会の〇〇でございます。よろしくお願いをいたしたいと思います。

私の方からは、今回の豪雨によりまして、当協議会の取組みにつきまして、御説明をいたしたいと思っております。

まず、被害の甚大さに鑑み、いち早くボランティアセンターの設置を決定をいたしました。

それに伴い、芦北町、水俣市、津奈木町、鹿児島県出水市の社会福祉協議会で締結をいたしております災害時総合応援協定に基づきまして、水俣市、出水市の協議会の経験豊かな職員の方から、指導やアドバイスを受けまして、7月6日に、芦北・津奈木広域ボランティアセンターを開始をいたしたところでございます。

7日から、被災者からのニーズとボランティアの事前受付を行い、8日から53名によるボランティアの活動を開始をいたしました。

運営面では、御存知のように、新型コロナウイルス感染防止も重要となっておりますことから、県内在住者に限ってボランティアの募集を行い、マスクの着用や手・指消毒の徹底をお願いするとともに、センター内では、検温や3密を回避するため、整理券の発行や一定の間隔を保つ配置・掲示など工夫を重ね、運営してまいりました。

運営スタッフにつきましては、県社会福祉協議会を中心に、県内各社会福祉協議会職員の3か月にも及ぶ応援をいただき、大変感謝をいたしているところでございます。

コロナの影響もあり、ボランティア活動者の確保を大変心配しておりましたが、10月4日に広域災害ボランティアセンターを閉鎖するまでの3か月間に、延べ7,124名の方々に活動いただき、被災者からの依頼を受けました533件のニーズに対し、530件、99%を完了することができました。

県内各地域から御参加いただきました一般及び団体のボランティア、県より運行いただきましたボランティアバス、県ボランティア事務局より派遣いただきました企業・事業所のボランティアの方々には、心から御礼を申し上げたいと思います。

また、県関係をはじめ、数多くの団体からの支援物資や資材、機器の提供など県民の暖かさ、力強さを感じたところでもございます。

この度の大災害を受け、また災害ボランティアセンターを運営して、改めて感じましたことは、芦北町は高齢化率が大変高い中、急傾斜指定区域や、土石流危険箇所内に多くの家屋が点在している状況でございます。

そのようななか、今回のような線状降水帯による集中豪雨が発生した場合、河川の氾濫や山林の地滑り、崖崩れなど、危険箇所も多いことから、これ

まで以上に行政からの迅速な情報の提供と、避難行動を促す情報をお願いしたいと思います。それと合わせまして、継続的な訓練と、災害に対する教育の必要性を強く感じたところでございます。私のほうからは以上です。

**【発言者⑩（津奈木町社会福祉協議会）】**

はい。津奈木町社会福祉協議会の〇〇と申します。どうぞよろしくお願いいたします。先程、〇〇が御発言されましたとおり、津奈木町と芦北町で7月の10日に災害ボランティアセンターの共同設置をしたところですが、御存知のように津奈木町では、床下・床上浸水を含めて、百十数件の住居被害等があったところですが、そちらのほうの災害ボランティアセンターでの対応をさせていただきました。

特に、被害の大きかった平国地区とその周辺の福浦地区と、それから小津奈木地区のボランティアセンターでの支援をさせていただきまして、約30件のニーズに対しまして、県内それから県の社会福祉協議会を中心に、また県内の社協さんの応援を受けまして、ボランティアさんが約二百数十名来ていただきまして、支援運営をすることができました。

また、特にボランティアを受けられた方につきましては、80代の独居の女性が言われておりましたが、「心の折れそうな状況で、ボランティアさんのとても真摯な、また誠実でひたむきな姿に心が打たれました。人の力の大事さとかつながりを、この時ほど感じたことはありませんでした。」ということで、大変な被害だったのですが、何とか立ち直れましたということで、私たちもその運営支援に携わることができてよかったと思っております。

先程〇〇が言われましたように、県内のたくさんの方のボランティアさんに来ていただきましたし、県の社会福祉協議会を中心にボランティアバスの運営もしていただきまして、本当に私達の方も助かったところでございます。

それから、9月の末に、桜団地というところで仮設住宅が10戸建設がされました。それに伴いまして、地域支えあいセンターの設置を10月21日に設置をすることとしております。それにつきましては平国地区、それから中尾地区というところの皆さまが今回の被害で、崖崩れ等あったのですが、そちらで避難を余儀なくされている方が、少しでも早く、また安心して元の生活に戻れますように、熊本県の皆さまに引き続き財政面の支援、それから人的な支援をしていただければ、大変助かるところでございます。

簡単ではございますが、以上で終わりたいと思います。ありがとうございました。

**【発言者⑪（社会福祉法人 慈友会 特別養護老人ホーム五松園）】**

社会福祉法人慈友会の特別養護老人ホーム五松園の〇〇と申します。どうぞ

よろしくお願い申し上げます。

今回の豪雨災害においては、本当に残念なこととなってしまいましたが、隣村の球磨村におきまして、特別養護老人ホーム千寿園では、利用者14名の方々の尊い命が失われました。あらためて亡くなられました方々の御冥福を祈り申しあげたいと思います。

私のほうから、当ホームにおきましても、今回の豪雨によって被災を受けました。高齢者福祉の取り組み等を含めまして発表をさせていただければと思います。

あらためて今回、当該施設においても千寿園さんと同じく、幸い水位が床上浸水80センチで止まって、それから徐々に下がったような状況になっております。あと数十センチ上がってれば、同じような災害に見舞われた危険性があるというのを十分認識したところでございます。

当施設においては、昭和51年開設後初めての床上浸水という甚大な被害となってしまいましたが、幸いにも職員の冷静な判断と適切な救助活動によりまして、人的被害を免れましたことは何ものにも代え難いものでございました。

とくに、今回の被災により、当施設利用者の住居スペースが確保できないことから、他施設への広域的な一時避難に対し、災害特例措置、定員枠外での受け入れについて、県の許可をいただいたところでございます。

また、災害派遣、医療チームDMATの派遣などの御配慮を賜りまして、この場をお借りし、大変厚く御礼を申し上げます。

このような中で、熊本県老人福祉施設協議会の御配慮によりまして、一時入所取り扱いにおいて、いち早く熊本市周辺の特別養護老人ホームなどの34施設、また水俣市、津奈木町のそれぞれの施設に、広域的な分散受け入れをお願いすることができました。本当にありがたく、大変に助かりました。

おかげさまで、8月末で、施設の復旧工事も大方完了しました。9月には入院されておられる方々を除き、利用者様全員が帰園をされ、現在通常どおりの事業再開をしたところでございます。

今回の被災により、改めまして、自助、共助、公助の重要性や広域連携の必要性、また災害ボランティアをはじめとした人的支援のありがたさを痛感、実感したところでございます。

今後、地震や台風、降雨災害など、災害の形態によっては、その対策も異なるかもしれませんが、今回の豪雨災害は県南を中心に発生しました。もし災害が熊本全域に及んだ場合の対応として、県域をまたいでの広域避難も考える必要があるのではないかと考えます。今後、国、県におけるその方向性や指針等に対して示していただければありがたいかなと思います。

なお、当施設においては車両18台、全車両浸水のため使えなくなりました。こういったなかで、被災者を受け入れる側にあたっては、遠方のな

か、リフト付きバス等における送迎、またそれにかかる職員の人件費等が経費もかさんでまいります。是非それらにかかります介護報酬の措置等があればさらに理解が深まっていくのではないかと感じます。

一方、今回の豪雨災害を踏まえまして、現在、厚労省、国交省におきましては、高齢者の福祉施設におきます避難確保対策についての検討が進められているようでございます。御承知のとおり、高齢者福祉施設の利用者は、要介護3以上の方々がほとんどでございます。通常の避難所での生活は、非常に厳しいものがあります。当然、施設内の垂直避難を余儀なくされます。

今回は早朝の時間帯での災害であったため、救助活動にあたる職員も、夜勤者、宿直者のごく少人数での対応となりました。また、いつ避難するのかの判断も非常に難しい。今回のような災害を踏まえすと、利用者の居住環境を2階以上にするなどの対応も考える必要があるのではないかと思います。

今後、いずれにしましても、高齢者福祉における避難確保対策については、国の方針等が示されるものと思われまます。県におかれましても、治水対策と併せてぜひとも実効性を高める対応策を御検討いただければ幸いです。以上で終わります。

#### 【発言者⑫（芦北町立佐敷小学校）】

失礼します。佐敷小学校の〇〇でございます。私からは今回の豪雨災害による児童宅、及び、校舎の被害状況と現在の取り組み状況について申し上げます。

まず、児童宅の被害状況でございますが、家屋全壊、半壊、床上、床下浸水あわせまして、本校現在、191戸ございますけれども、そのうちの73戸、割合としまして38.2%の家庭が被災をしたという状況でございます。

現在、仮設住宅、借家等からの通学者が14世帯、25名、割合としまして、全児童の約10%が仮設住宅等から通学をしております。そのなかには、土砂災害によりまして、父親、祖父等を亡くした4名の姉妹等も含まれております。

校舎のほうですけれども、本校の校舎は、うたせ船をイメージして作られておりまして、子ども達の自慢の二階建ての木造校舎でした。そのうちの1階部分、教室とか職員室、体育館等がございますが、すべて浸水いたしまして、いわゆる教育活動が停止した状態になりました。

そのため、近隣の小中学校の空き教室を利用して、お借りして、約2か月間、実質41日でしたけれども、教育活動を行ってまいりました。

その間、コロナ禍のなか、子ども達一同、佐敷小学校に全児童集まりまして、19台のスクールバスに便乗して、通学をいたしました。これに関しましても、多くの皆さんのおかげで、我々の本分である教育を施すことができました。厳しい状況のなか、元気に登校してきた子ども達の姿を見て、改めて義務教育の重さというのを痛感した次第です。

それから現在の状況でございますが、今週月曜日12日から早急に作っていただきましたプレハブ校舎に移りまして、授業再開したところで、今日で5日目でございます。子ども達は元気にやっております。

今なお、校舎の1階部分ですとか体育館は、改修工事がなされておらずで、教育活動に支障をきたしているという状況でございます。特に体育の授業が、体育館が使えないため、全くできておらず、現在、町内で唯一、本校のみ運動会が実施できていない状況でございます。

今後は、町のお力添えで、隣接しておりますスカイドームを借用しまして、体育の授業を行い、そして11月末には復興祈念として運動会を形を変えて実施する予定でございます。

また、同様にプレハブ校舎を運動場のほうに建設していただきましたが、そのため運動場が狭くなりました。低学年の子ども達にとっては、遊びも大切な勉強の一つなのですけれども、遊ぶことも、遊び場が十分に確保できないため、子ども達のストレスにもつながっている状況が見受けられます。

更に、先程も出ましたけれども、佐敷川沿いの通学路も、数か所陥没したままの状態でございます。学校職員あるいは地域のボランティアの皆様に取り上げていただき、復元開始のための対策をとっておりますけれども、やはり安全・安心な通学環境とは言えない状況でございます。

色々学習環境が変わってきたなかにも、子ども達のメンタル面が心配だったのですけれども、県のほうからはスクールカウンセラーを1名配置、動員していただいたことにより、そういったカウンセラー活用によりまして、子ども達のメンタルヘルスもしているところでございます。

環境が変わる中ではございますが、ソフト面においては、私達教職員で知恵を出し合い、皿を割ることを恐れず、子どもの心に寄り添った教育活動を進めていきたいと思っております。どうぞ、最後私が6年生の児童から手紙を貰ったのですけれども、その中に、「修学旅行と卒業式だけは佐敷小学校でしたいです。」ということが書いてございました。修学旅行は来週、二日間にわたりまして、長崎方面に出かける予定で、保護者のほうからも全て合意形成ができて、全員そろって行くことにしております。

ただ、卒業式のほうが先程申しましたように、体育館が全く工事がなされておらずで、子ども達の願いを叶える上でも、ぜひ早急な復旧をお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

**【発言者⑬（芦北町立佐敷中学校）】**

佐敷中学校の〇〇と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。被災状況等について、まずお話をさせていただきます。

佐敷中学校は佐敷川のすぐそばにありまして、佐敷川から南手へ約30メー

トルのところに運動場、それから約100メートルのところに、校舎がござい  
ます。今回の豪雨では、運動場が2メートル強の浸水、校舎は床上83センチ  
の浸水被害を受けました。運動場は污泥が堆積し、校舎一階部分、体育館、技  
術室、プールなどは壊滅的な状況でした。

最初に見た時には、学校再開まで、何か月かかるのであろうと、1か月はか  
かるのではないかというふうに心配しておりました。

しかしながら、たくさんの方ボランティア、延べ400人ぐらいにわたったか  
と思います。それから熊本県、芦北町の強力な支援のおかげで、16日に3年  
生を先行授業開始、そして20日の日から1、2年生の授業開始ということで  
進めることができました。大変感謝をしているところでございます。

現在も校舎1階部分、体育館等は使用禁止となっており、2階、3階で、全  
校生徒の授業を行っております。特別教室等は使えない状況もあり、学習に支  
障をきたしている部分もございませぬ。更に、コロナ渦の中において、密の状況  
で学習をさせなければならないため、色々苦慮しながら対応しているところで  
あります。また、体育館が使えず、集会活動や体育館での体育、および部活動  
にも支障が出てきております。その改善を図る必要があるなと思っております。

なお、先程佐敷小からもございましたけれども、通学路については、佐敷川  
沿いや田川地区の崩落現場等、依然として危険な状況があります。そのなかを  
自転車で通学しているため、完全に安全とは言えない状況もあるかと思いま  
す。こういう被災状況がまだございませぬ。

更に、生徒の被災状況についてでございますけれども、佐敷小からもござい  
ましたけれども、母親を亡くした生徒1名、祖母を亡くした生徒1名がおりま  
す。また、4分の1の生徒の家が床上浸水という状況でした。命からがら逃げ  
た生徒も数多くおります。このような実態から、第一に生徒の心のケア、安定  
を図る必要があると思っております。

次に、確実な学習の保障を提供しなければならないと思っております。この  
心のケア、安定、それと確実な学習保障、この二本を柱に、PTA等々と協力  
しながら全職員一丸となって取り組んでいるところでございませぬ。

しかしながら、先日、体育大会を行いまして、子ども達の歓声が戻ってまい  
りました。非常に元気を取り戻したなというふうに思っております。心のケア、  
安定につきましては、特別な大きな事案は今のところありませんので、引き続  
き丁寧に対応していきたいというふうに思っております。

続きまして、意見要望等について3点申し上げたいというふうに思いま  
す。

一点目は、体育館および1階部分の早期復旧です。今、熊本県、芦北町でも  
しっかり取り組んでいただいております。先程小学校からもございましたけれ  
ども、体育館については、3年生が卒業する3月には、少なくとも完成させて

いただければ大変ありがたいなと思っておりますし、一階部分については学習の保障という面で、早急に改修が進めばいいなと思っておりますのでございます。

二点目としましては、通学路の復旧です。先程申しましたように、いくつか危険な箇所がございますので、どうぞよろしくお願ひしたいと思います。

意見要望の最後、三点目でございますけれども、教員と人材の支援についてでございます。先程申しましたように、生徒の心のケアの安定、学習の保障を一生懸命取り組んでいるところでございますけれども、その他にも水害により、備品の整理等、たくさんの業務がかさんでおります。

従来の教員の在校時間よりも、かなりの増加がある状況でございます。豪雨災害から9月半ばまで、熊本県から教員等にのべ30人にわたって御支援いただきました。大変心強く、そして大変助かりました。感謝申し上げたいと思います。

現在、加配を一名つけていただいておりますけれども、臨採等も見つからない状況もございます。子どもの心のケアの安定、学習の保障、万全を期すため、また教職員の心身の健康を維持するためにも、引き続き人材の確保という点についてお願ひを申し上げたいというふうに思います。以上で私から終わります。ありがとうございました。

#### 【発言者⑭（県立芦北高校）】

はい。芦北高校の〇〇です。本校の場合は、学校の横に佐敷川の支流の乙千屋川が町中を流れております。これが4日、災害の朝、4時頃から堤防から水が越え始めまして、結局、事務室前で、床上85センチの床上浸水ということになりました。建物の1階部分と、それから先程ありましたように、体育館、武道場、グラウンド、農場全て浸かりました。

それから当初から電気、水道、電話が、内線も外線も使えないということで、近くに電波塔があるのでございますけれども、それも故障した関係で携帯電話もつながらないという状況で、外部とのやりとりは、携帯電話に着信が残っているのを見て、外に出て、電気が通っているところを探してやりとりする。そういう日々が続きました。

翌週には、2階、3階部分の電気はついたのでございますが、被災してから電気、水道、電話の復旧がなかなか業者も見つからない。頼んでも対応に遅れ、地元の業者は、このところ忙しくて、なかなか学校まで来てくれないということもありました。水道に至ってはなぜ止まっているのか原因も分からない。

そういう状況で、このような業者のやりとりは、うちには事務長以下事務の職員は3人いるのですけれども、全て事務職員が外部の業者とのやりとりをやっています。ただ専門的な知識も無いものですから、そして業者を探すのも苦

労しながらやってきました。

最終的には、水道の復旧は被災して10日後です。エアコンの復旧は1か月後ということで、被災してから2週間休校して2週間後には学校再開したのですけれども、しばらくはエアコンも無いなかで授業をしていました。

電話などの内線については、先月9月末にやっと復旧した状況です。なかなかこのような大きなライフラインに関わるようなものは、事務職員だけでは難しいなというのが実際感じたところで、是非ともそういった所には専門の人達の応援があったらなというふうに感じているところです。

それから事務職員が3名といたしましたけれども、それは県教委のほうから事務職員1名増配していただきまして、スクールカウンセラーも1名増配していただきました。

今、思うのは、丁度休みの日のそれも朝方だったので、よかったのですけれども、これが生徒のいるときだったらどうなるのかなというふうに思います。

実際、私も水位が上がっているのを見ておりましたけれども、堤防を越えて水が流れはじめて、下流の、下のほうにずっと流れていったのですけれども、水位が上がってきたなというふうに感じてから30分くらいで外には出れない状況になりました。

ですので、生徒の安全の確保ということで、様々な治水対策を是非お願いしたいということです。以上です。

(以 上)